

## p316 「一問一答」

1. ゴオウはシカ科のジャコウジカの雄の麝香腺分泌物を基原とする生薬で、強心作用のほか、血圧降下、鎮静作用がある。
2. マオウを含む製剤は、心臓病・高血圧・糖尿病・甲状腺機能障害と診断された人は、服用前に専門家に相談することとされている。
3. シャクヤクは、ボタン科のシャクヤクの根を基原とする生薬で、鎮痛鎮痙作用、鎮静作用があり、内臓の痛みにも用いられる。
4. ハンゲは、サトイモ科のカラスビシャクのコルク層を除いた塊茎を基原とする生薬で、中枢性の鎮咳作用を示す。
5. キョウニンとは、バラ科のヤマザクラ又はカスミザクラの樹皮を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
6. センブリやゲンチアナ、リュウタン、ケイヒはいずれも苦味健胃生薬で、オブラートで包んでの服用は避ける。
7. ダイオウは、瀉下を目的としない漢方薬にも含まれていることがある。
8. センソは微量で強い強心作用を示し、1日5mg を超えて含有するものは劇薬となる。
9. ウワウルシは、主に瀉下作用を期待して用いられる。
10. ブクリョウはサルノコシカケ科のマツホドの菌核で、利尿作用、鎮静作用、健胃作用等を期待して用いられる。
11. センソは、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用することとされている。
12. カシュウは頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除くことを目的として、外用の毛髪用薬に配合されることがある。
13. ブシはプロスタグランジンの産生を抑制して、鎮痛作用を示す。
14. ヨクイニンとは、イネ科のハトムギの種子を基原とする生薬で、肌荒れやいぼに用いられる。
15. サイシンは、ウマノスズクサ科のケイリンサイシン又はウスバサイシンの根、及び根茎を基原とする生薬で、鼻閉への効果が期待できる。

【解答】

1. × ゴオウ（牛黄）はウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬。
2. ○
3. ○
4. ○
5. × バラ科のホンアズ、アズ等の種子を基原とする生薬で、鎮咳作用を期待して用いられる。
6. × ケイヒは芳香性健胃生薬。オブラートで包んでの服用を避けるのは他の苦味健胃薬と同様。
7. ○
8. ○
9. × ウワウルシは利尿作用のほか、尿路の殺菌消毒を目的に用いられる。
10. ○
11. ○
12. ○
13. × ブシはプロスタグランジンの産生を抑えずに、鎮痛作用を示す。
14. ○
15. ○